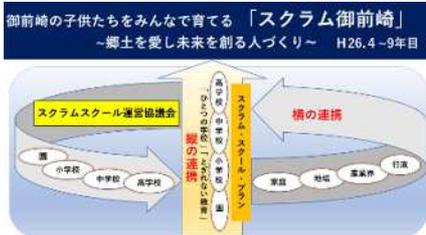


# 令和4年度 第2回スクラムスクール運営協議会 記録

令和5年3月9日(木) 19:00~20:20  
 会場：御前崎市佐倉地区センター  
 進行：学校教育課 (主席指導主事)

- 1 開会の言葉 (進行)
- 2 あいさつ及び本年度の取組について (学校教育課長) (抜粋)



- ### 今年度の取組 (縦のスクラム)
1. スクラムゼミ (全小中学校)
  2. スクラム研究会 (御前崎こども園)
  3. 池新田高校・御前崎分校授業公開週間
  4. スクラム合同研修会
  5. スクラム避難訓練 (園・小連携)  
※御小、白小はコロナの影響で中止
  6. 中学校区で取り組む魅力ある園・学校づくり

- ### 今年度の取組 (縦のスクラム)
1. スクラムゼミ (全小中学校)
  2. スクラム研究会 (御前崎こども園)
  3. 池新田高校・御前崎分校授業公開週間
  4. スクラム合同研修会 8月2日
- 異校種間の日常的な交流  
 「子供観」「授業観」の共有  
 一御前崎の子どもを共通の視点をもって育てる

- ### 中学校区のスクラムで魅力ある園・学校をつくる取組
- 【浜岡中学校区全教職員が取り組むこと】  
 P: 児童生徒と教職員の対話、コミュニケーション(児童生徒同士、保護者と教職員)を大切にしたい!  
 D: 「あいさつプラスワン」  
 C: 学校評価「園・学校は楽しい」の「当てはまる」の割合  
 A: 園長・主幹教諭・教務主任研修会でR5の取組を検討
- 【御前崎中学校区全教職員が取り組むこと】  
 P: 自己肯定感の低い子供への価値づけを大切にしたい!  
 D: 「認め合える温かいボイスシャワー」

- ### 中学校区のスクラムで魅力ある園・学校をつくる取組
- 【浜岡中学校区全教職員が取り組むこと】  
 「あいさつプラスワン」
- 【御前崎中学校区全教職員が取り組むこと】  
 「認め合える温かいボイスシャワー」
- 小学校不登校 出現率：-0.7% (前年度同時期比-12人)  
 1月末時点

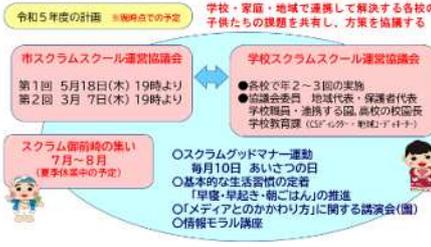
- ### 魅力ある園・学校をつくるためのPDCA
- 【浜岡中学校区全教職員が取り組むこと】  
 P: 児童生徒と教職員の対話、コミュニケーション(児童生徒同士、保護者と教職員)を大切にしたい!  
 D: 「あいさつプラスワン」  
 C: R4学校評価「園・学校は楽しい」の「当てはまる」の割合  
 A: 園長・主幹教諭・教務主任研修会でR5の取組を検討
- R5 「笑顔であいさつプラスワン」

- ### 魅力ある園・学校をつくるためのPDCA
- 【御前崎中学校区全教職員が取り組むこと】  
 P: 自己肯定感の低い子供への価値づけを大切にしたい!  
 D: 「認め合える温かいボイスシャワー」  
 C: 学校評価「園・学校は楽しい」の「当てはまる」の割合  
 A: 園長・主幹教諭・教務主任研修会でR5の取組を検討
- R5 「あなたのことが大好きです！」  
 (子供理解、受容的なかかわり)

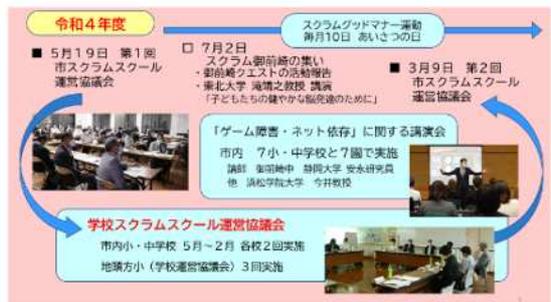
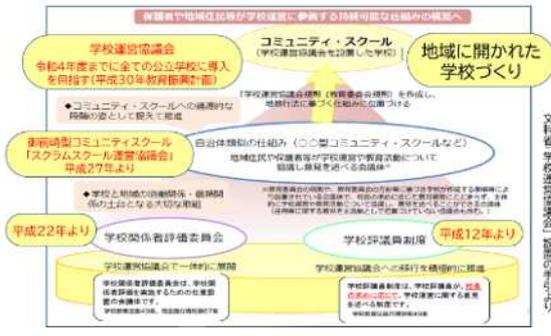
- ### 今年度の取組 (横のスクラム)
1. スクラムグッドマナー運動 (毎月10日の挨拶運動)
  2. 学校支援地域本部によるボランティア活動
  3. シニアスクール (浜中・北小、白小)
  4. 地域人材を活用した小学校の学習 (教科・総合)
  5. 地域人材を活用した中学校のキャリア教育  
※職業講話、職場体験、シニアプロモーション  
地域担任、「私の航海図」
  6. 地域人材を活用したエネルギー教育 (小、中)

- ### 今年度の取組 (縦・横のスクラムをつなぐ)
- 御前崎市スクラムスクール運営協議会 (市、市P連)  
 ○市全体の子供たちの生活習慣の課題解決に取り組む  
 ・「自律・早起き・朝ごはん」の推進→「睡眠」の課題  
 ・「メディア」との主体的・自律的なかわり  
 ⇒発達教諭部「睡眠習慣の改善に主体的に取り組む子の育成」  
 ⇒各小中学校「浜松学院大学 今井昌彦教授による親子講演会」  
 ⇒「スクラム御前崎の願い」R4.7.2  
 東北大学 瀬 路之 教授による講演会  
 ・全国学力・学習状況調査、運動能力調査の結果公表 (リーフレット)
- 学校スクラムスクール運営協議会 (学校運営協議会)  
 学校経営方針を共有し、学校・家庭・地域が連携して各校の子供たちの課題をスクラムで解決に向けて取り組む。

- ### 令和4年度 スクラム御前崎の結果・・・
- 子供たちの学力は?
  - 子供たちの生活習慣は?
  - 「早寝・早起き・朝ごはん」の中で課題だった「早寝」(睡眠)の状況は?
  - 「早寝」を妨げる要因になっていたメディアの長時間利用の状況は?
  - 学校評議員会を学校スクラムスクール運営協議会に踏襲したが、うまく機能したか?
- 課題を共有し、令和5年度のスクラム御前崎につなげましょう!



- 3 学校教育課より (報告)
  - (1) 学校スクラムスクール運営協議会について (CSディレクター) (抜粋)





(3) 睡眠に係る調査研究報告 (御前崎市養護教諭研修会) (抜粋)  
「元気な心と体をつくる睡眠指導」



1  
元気な心と体をつくる  
睡眠指導  
これまでの取り組み



御前崎市の  
子どもの  
健康課題

基本的な生活習慣が  
整っていない層が多い

- ①必要な睡眠時間が取れていない
- ②生活リズム(睡眠のリズム)が整っていない
- ③メディアの使用時間が長い

**私たちの願い**

- 必要な睡眠時間をとれるようになること
- 規則正しい生活リズムを幼少期から身に付けること
- メディアの使用をコントロールできるようにすること

生涯の基盤となる  
基本的な生活習慣を身につけ  
健やかに成長してほしい

**目指してきたこと**

- 子どもに必要な睡眠時間の確保  
小学生9～10時間  
中学生7～8時間以上
- 毎日同じ時刻に寝る
- 寝る1時間前にメディアの使用をやめる

**明確な行動目標**

**取り組みの内容**

睡眠の役割や不思議、規則正しい生活リズムの価値を伝える

**取り組みの内容**

今年度の取り組み

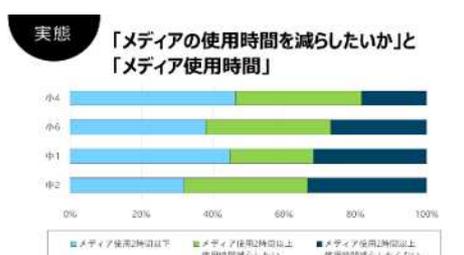
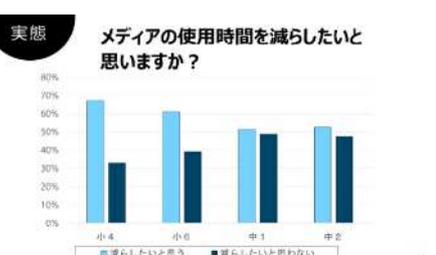
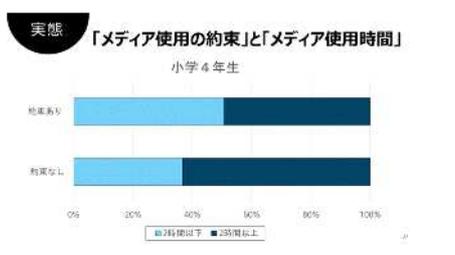
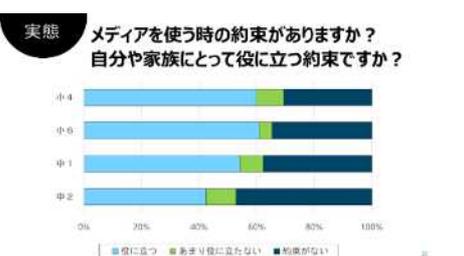
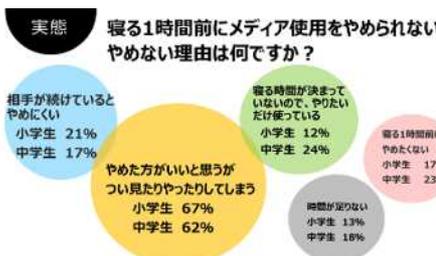
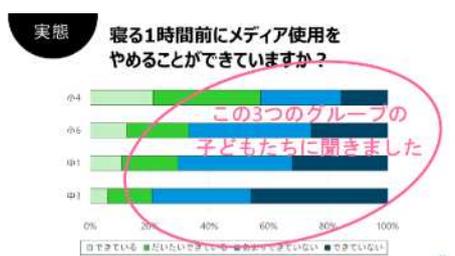
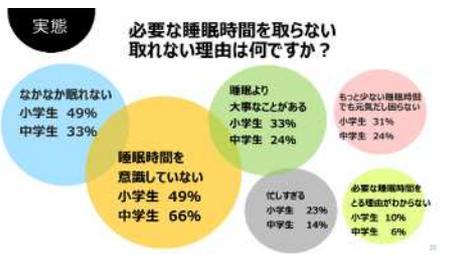
**結果まとめ**

3つの行動目標は？

必要な睡眠時間	毎日同じ時刻に寝る	寝る1時間前にメディアをやめる
改善(維持)	改善なし	改善なし

3  
今後の取り組みについて  
子どもたちの実態から考察

睡眠習慣 メディア使用  
改善できない  
改善しない理由は？



どうしたら子どもたちは行動を改善できるのか？

子どもたちを健やかに育てるために  
できることは？

御前崎市スクラムスクール運営協議会について

横の連携と縦の連携について、縦の連携が園から高校までであるという事が大きな特徴。横の繋がりでは、シニアスクールや職業講話とかの繋がりが今でも受け継がれているということを改めて確認することが出来た。御前崎がスクラムを組むことによって、どんな子供たちに育て欲しいのか、またその子供たち自身がどういう人生を歩みたいのかをスクラムで支えていくということが大事になってくるのではないかと感じた。

今、文部科学省で第4期教育振興基本計画の策定が進められている。この振興基本計画が次の教育政策の中心になっていき、それが次の学習指導要領の改訂につながっていくのだろうと思う。その中で重要なキーワードとして語られているのが、ウェルビーイングという言葉。経済的な豊かさではない、よりよく生きる権利。そういったものを大きな目的として掲げよう。ウェルビーイングの実現ということを軸にしながら、それを実現するためにどんな施策を打っていけばいいのかを国が整理している。そういった中で言われていることの一つが、一人一人がどんな人生を歩みたいのかということをも自分自身が自覚をすることによって大事になってくるということ。それをするためには、いろいろな経験やかかわりは、大人や友達や地域等の関係性の中で生み出されるものであるから、それを見出せるような環境を整えていく、それが大人たちの役割である。またそういう役割を続けていくことが、SDGsという持続可能な社会の実現につながっていくのではないかと語られている。

今日のプレゼンの中で『自己肯定感』という言葉がたくさん出ていた。このウェルビーイングを少なくとも子供たちが実感するためには、やはりこの自己肯定感というのは非常に大事なものであるか、不可欠なものだろうと思っている。その自己肯定感を持つためには何が必要かということ、自分自身が存在しているのだという実感、あるいは安心感、あるいはそれが安心できる環境、そういったものがあるからこそ自己肯定感というのは生まれてくるのではないかなと感じている。

そういう中で、スクラムの縦のつながりのところは自己肯定感とか、存在しているのだということの出発点はやっぱり家庭だろうと思っている。あわせて、小学校入学前の幼児教育はとても重要になってくると思う。特に幼児教育では、遊びというのを軸にしながら、主体的にかかわっていけるようにしている。小中学校の先生から見ると、ただ遊んでいるだけではないかと思うかもしれないが、なかなか面白いもので、ごっこ遊びは結構リアルな自分が見ている社会を模倣していて、ごっこ遊びとかは、なかなかクリエイティブだとみている。

しかし一方で、結構あれこれ指示を出す保護者さんがとても多いという印象がある。よかれと思ってやっているということもよくわかるが、親がよかれと思ってやっていること、場合によっては、先生たちがよかれと思って手厚くやっていることが、その子供たちにとっては自己肯定感や自分が存在しているのだという感覚を感じ難くしてはいないかどうか。改めて自分の指導観やこの理解はどうだったのかなと振り返る機会としてとても貴重な機会だと思う。縦の繋がりの学校関係者だけだと言えなかったり、それが当たり前だと思ったりしていると感じにくいところがある。そこで、その横のつながり、特に地域の方や企業の方など学校の外にいる方が活動や行動を見て、新たな気づきというのを与えてくれる可能性を秘めている。この縦と横とがつながっているこのスクラムの仕組みというのはとても貴重。スクラムをすることでどんな子供たちに育てていきたいか、また、子供たち自身がこうなりたいと思えるような仕掛けづくりというのもまた大きな課題だと思っている。

## 学校スクラムスクール運営協議会について

今年度から、学校レベルで学校運営協議会というのが設置された。強調されていたのが、合議制であるということ。合議制というのはみんなで話し合っただけで決めていく機関であるということ。

今まで、学校運営協議会の一つの機能として、教育課程を承認する、学校の方向性を認めるという権限をもつというのが大きな特徴でしたけれども、この裏には、今までは学校は学校だけで決める権限があった。学校評議員はあくまでもアドバイザーなので、あくまでも学校がこの中で決めていくという仕組みだった。合議制になったということは他の人たちの意見を聞くだけではなく、一緒に学校の方針を決めていく機関になったということ。

僕は、この仕組みを熟議民主主義の実践というふうに捉えている。熟議民主主義の反対の言葉としては、集計民主主義ということがある。民主主義というと、多数決で決めるというイメージがあるかと思うが、それは今でいうと集計民主主義というとならえ方になる。数が多いほうがその意見が強いのでそれを左右しよう。ただ、それが果たしてみんな幸せになるかどうかということ、その限界も指摘されて、その少数の意見だったり地域の状況だったりというところで、実はそのズレが生じているのではないか。そのズレを縮めるとか、少なくするためには、やっぱり熟議、話し合いが必要なのではないかとということで、この熟議民主主義というのが理論上では昔から言われてきた。それを学校に入れることによってどういう効果があるかと考えている時に僕は二つの正当性という言葉があるかと思っています。

一つは、『ジャスティス』。内容の正しさという意味での正当性。もう一つが、手続的な正しさ『レジティマシー』そちらの正当性もあるかもしれない。

一つ目の『ジャスティス』。内容的な正しさというのは、恐らくこれまでの、そしてこれからの学校はずっと考えてきたし、その学校の中で何が正しいのか、子供たちにとって何が最適かという事を一生懸命考え、実践してきたのだと思う。それは、あくまでも学校の中だけで決めていたところがあり、それが本当に社会に出てから本当にそれが正しいのか、あるいは、今の地域や保護者の視点から見た時にそれがちゃんと理解されているのかどうかというところが一つ課題になってきた。

そこで、この学校運営協議会というところで、全員ではないけれどもその地域や保護者の代表の方と一緒に話し合っただけで決めていく。そこで決めたことについて実行していく。それが学校だけでは、実践が難しければ、ボランティアとか地域の人をお願いする。そういった活動が適切、本当に自分たちで決めたことが、効果があったのかということを検証していく、それを学校関係者評価として実施していく。そして、評価を見ながら次年度どうしていいかと一緒に考えて決めていくというのが、この学校スクラムスクール運営協議会の機能だろうと捉えている。各校みんなで話し合っただけで決めていく機関だが、いろいろ問題があった時の最終的な決定権は校長先生が持つべきだと僕は思う。最終的な決定権は校長先生だけれども、それまでのプロセスとして、みんなで話し合っただけで決めていく。違う意見があるとしたら、それをどうしたら、具体的な形になるのかということや話し合いによって、探りながら最適解を探っていく。ある意味では、ファシリテーション能力というのが、学校にも求められてくるかと思っています。是非その学校運営協議会の協議、対話、熟議とか、話し合いの工夫というのをまた来年もしていただけるとありがたいと思う。

2月の県のコミュニティスクール関係者の研修会で、「実際、順調に進んでいますか？」と聞くと、7割位進んでないという回答がありました。「では、どうすれば進みますか？」と保護者・地域の方に聞くと、一番多かったのが『雰囲気づくり』だそうです。校長先生や

学校側の『話しやすいという雰囲気があるかどうか』で変わってくるということもおっしゃっていたので、是非その話し合いの雰囲気づくりで、学校評議員からの転換を是非、果たしていただきたい。

### 市内小中学校の調査結果について

特に学力とか睡眠時間の効果が出ているということがとても素晴らしいと思った。キーワードとして出てきた自己管理能力。今学校でキャリア教育が展開されている。キャリア教育と聞くと保護者、地域の方々は職業教育とか、進路指導と思われる方も結構多いだろうが、ある意味このキャリア教育は、ウェルビーイングの実現のための手段になる。キャリア教育の中で育てたい力の一つが自己管理能力。自分をよく知ること、そして自分を管理していくこと。それがどうして必要なのかというと、自分が将来的になりたいという目的、目標があるかどうかで、自己管理ができるかどうかというのは大きく変わってくる。そういう意味でこのキャリア教育の中にも、自己管理能力が含まれている。

御前崎のキャリア教育、特に職業講話。特に中学生についてはかなり積極的にやられてきた。子供たちが将来こうなりたいという思いにつながるようにしていくということと、そのためには、今の自分や生活を見直していく必要があるということ、子供たち自身が実感できるような環境づくりがとても大事になってくる。つまりそういう目標があるためには、それを受けて何が必要かということ自分で分析をして分かることが大事。自己理解にもつながるし、将来こうなりたいというプランをつくって、そうなるためには、今の自分をまず知り、そのために何が足りないかということ进行分析しながら、具体的にこうしていこうというものを当てはめていく。自分が何のためにそれをするのか。特にそのためには今のこの生活をどうすればいいのかということ自分で自覚していくということにつながる。これはまさにそのキャリア教育と言われる。自己管理能力の育成にもつながると思う。子供たちがどうなりたいのかということ自覚できるようになるためには、メディアとの付き合い方とか睡眠について考えなければいけないという必要感を実感できるような取組になっていくと更に良いのではないかと思う。

### 睡眠に係る調査研究について

養護教諭の先生方が、大変素晴らしい研究成果を出してくださったと思う。行動をしながら、リサーチをして、リサーチをしたことを次の行動の改善につなげていくことを『アクションリサーチ』と呼ばれている。養護教諭の先生方の研究は、このアクションリサーチの実践的な研究だったと思った。その中で興味深かったのが、子供たちに対してなぜそれが出来ないのかというような声を聞きとろうとしていたところがとても素晴らしいと思っている。

子供の意見を聞くということに絡めると、令和5年4月1日からこども基本法が施行される。1993年に児童の権利に関する条約というのが、国際連合で発効され、日本も批准をしていたが、それに伴う国内の法律が存在していなかった。こども基本法ができて、子供の権利というものが具体的に法律で規定されていくことになる。その中で、是非お伝えしたいと思ったのが二つ。

一つ目は、『児童の最善の利益というものを保障していこう』ということ。その子供にとって何が最善なのかということ大人たちが考えていこうというのが一つ。もう一つは、『子供意見表明権』というもの。子供というのは、どうしてもその保護の対象として育てな

くてはいけない、何かしてあげなくてははいけない。特に日本はそれが非常に強い国だったと思う。一方で、子供というのはひとつの独立した人格をもって生まれてくる。けれどもいろいろな集団活動や社会化される中で、いつの間にかそれが抑圧されたり、ちょっと無理をして我慢をしたりすることで無理がきてしまうのではないか。そういった中でこの『子供の意見表明権』子供が意見を言ってもいいというものを権利として認めようということが出てきた。嫌なことは嫌だと言うことも権利だし、そういったことを言われたらそれを認めるということも権利の一つになる。

それとも共に、出来ない、あるいは、したいけれど出来ない理由というものも一律に「駄目です」というのではなく、子供の実態に寄り添いながら、さらに進めていただきたい。アンケートの中に『特に忙しすぎる』という事が17%位あった。これは何によって忙しいのかは分からないけれども、本当は寝たいけれども寝られない家庭環境だったりするという状況がある子もいるかもしれない。科学的な根拠というのを示すことも大事だけれども出来ない理由も含めながら、そのために今はちょっと我慢しようとか、ちょっと他の人に手助けをしてもらうことで、あなたの時間を確保しようという個別ケアが必要になってくるかも知れない。是非、この子供の権利という視点からもこの睡眠にかかるところを進めていただきたいながら、1人でも多くの方たちが自分自身のウェルビーイングを描きながら実現に向けて進めていけるようにスクラムを組みながら進めていただければ・・・というふうに思う。

## 5 連絡・閉会の言葉（進行）

---

○令和5年度御前崎市スクラムスクール運営協議会の実施計画

第1回 令和5年5月18日(木) 午後7時より 会場：御前崎市研修センター

第2回 令和6年3月7日(木) 午後7時より 会場：未定